

水産海洋研究会 昭和42年度春季シンポジウム

誌名	水産海洋研究会報
ISSN	03889149
巻/号	11号
掲載ページ	p. 51
発行年月	1967年9月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



Ⅳ 水産海洋研究会昭和42年度春季シンポジウム

海底地形，DSL生物，海流について

共催 { 水産海洋研究会
日本海洋学会

日時 昭和42年4月10日(月)午前9時～午後5時30分

場所 東海区水産研究所第1会議室

コンピナー 宇田道隆 (東京水産大学)

話題および話題提供者

漁礁、海底谷と資源生物	新野 弘(東京水産大学)
日本海、西日本海域の海底地形関連漁場と海況	下村敏正(西海区水産研究所)
一定点における水温と魚群遊泳層の日変動について	川口哲夫(鳥取県水産試験場)
海底地形と海況、波浪	吉田耕造(東京大学理学部)
DSLと漁場生物	鈴木恒由(北海道大学水産学部)
SL, DSL生物とその採集について	大森 信(東京大学海洋研究所)
長崎丸の魚群探知機による漁場調査	柴田恵司(長崎大学水産学部)
超音波及び水中テレビによる海底と漁場生物調査	西村 実(水産庁漁船研究室)
音響による漁場生物探査と問題点	間庭愛信(水産庁漁船研究室)
各社(海上電機、光電、産研、古野)デイスカッター 自由討論、問題点要約、宇田道隆	

なお、出席されなかつたが、児島俊平(島根県水試)、浜島謙太郎(長崎県水試)両氏は原稿を後送されたので併せ掲げた。

1 漁礁、海底谷と資源生物

新野 弘(東京水産大学)

漁礁を大別して、(1)構造的漁礁、(2)火山性漁礁の2系統とする。(1)では日本島弧に平行ないくつもの断層、島礁が雁行性構造(Echelon Structure)を示し、1つ1つのブロックが傾動を示す。日本海に多数漁礁例が見られ、深さ、底質など特有な分布を示す(大和堆、北大和堆)。また、駿河湾の「中ノ瀬」、「石花海(セノウミ)」、「金洲ノ瀬」、伊豆東～南沖の「瓢箪瀬」、「向い瀬」、「銭洲」等に、北海道襟裳堆、オホーツク大和堆等が同様雁行配列をなす。理論上琉球アーク、小笠原アークも同様分布している。(Korean Plateauにもあ